

為替相場展望

株式会社 日本総合研究所
調査部 マクロ経済研究センター

<http://www.jri.co.jp/research/>

目 次

ドル円相場	1
ユーロ相場	2
トピックス	3~6
ドル円相場・チャート分析	7
為替関連指標	8
資料	

本資料は2011年6月1日時点で利用可能な情報をもとに作成しております。

本資料に関するご照会は、下記宛てお願い致します。

欧米経済・市場動向グループ
牧田 (Tel: 03-3288-4244
Mail: makita.takeshi@jri.co.jp)

1. ドル・円相場見通し

秋口にかけて円高地合いが続くものの、その後は徐々に円安が進む見込み。

(1) 5月の相場回顧

5月のドル円相場は、米失業保険申請件数の大幅増加、商品市況急落・世界的な株安を受けたリスク回避の動きから、5日にかけて一時79.57円まで円高ドル安が進行。その後、良好な米雇用統計を受けてドルが持ち直しに転じ、日系企業による海外企業買収報道等を手掛かりに、19日にかけて82.23円までドルが反発。もっとも、低調な景気指標を受け、米国景気の先行き減速懸念が再燃するなか、月末にかけては80.70円までドルが弱含み。

(2) 今後の見通し：わが国生産の予想以上に早い復旧を受け、見通しを小幅円高方向に修正

07年春以降の一方的な円高ドル安局面は一巡したとみられるものの、秋口にかけては80円台前半を中心とした円高地合いが続く見込み。世界的にリスク回避機運の後退が予想される秋口以降は、緩やかな円安が見込まれるものの、円安進行余地は限られる見込み。

【円安ドル高要因】

- ①震災により、インフラや生産設備の毀損など、わが国ファンダメンタルズは甚大なダメージを被っているほか、先行き財政赤字の大幅悪化が見込まれること
- ②米国が量的緩和(QE2)の終了に向かう一方、日銀は追加金融緩和を辞さない姿勢を示していること
- ③サプライチェーンの寸断や原油高等により、わが国貿易収支は当面赤字が続く可能性があること
- ④電力問題など国内景気の正常化に向けてなお不透明要因が数多く残存していること、等

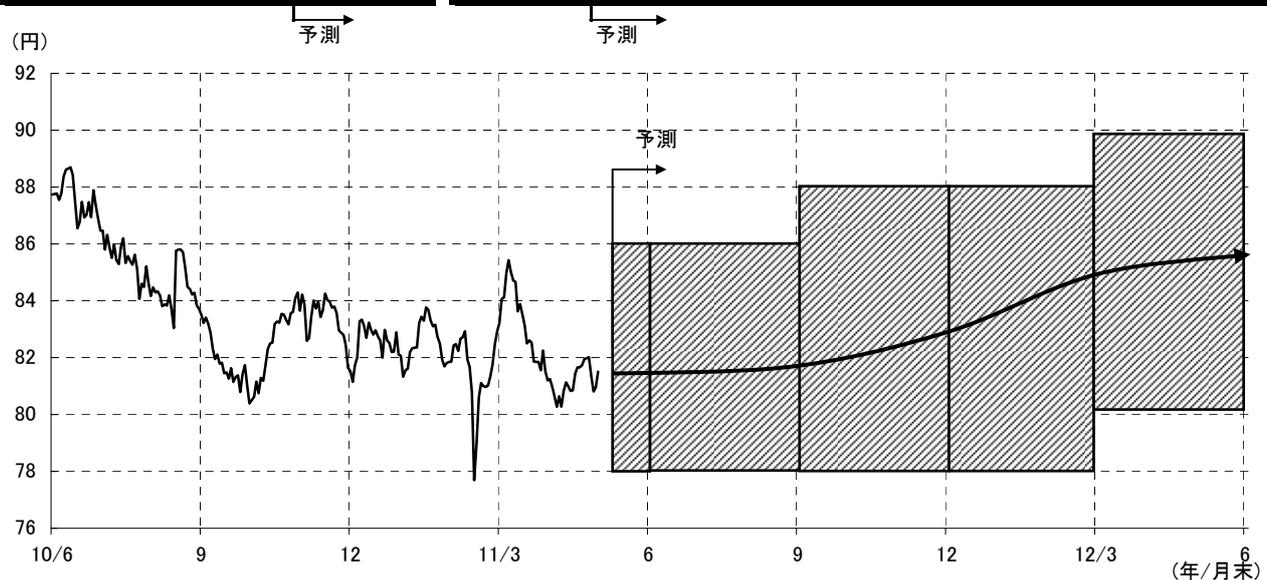
【秋口までの円高ドル安要因】

- ①中東・北アフリカでの政情不安や世界景気の先行き不透明感の高まりを受けたリスク回避姿勢
- ②手元流動性確保に向けたわが国企業による対外資産売却・対外投資抑制の動き

【秋口以降のドル高抑制要因】

- ①米国では、バランスシート調整下、予測期間中の力強い景気回復・利上げは期待薄
- ②「5年間で輸出倍増」を掲げるなど、米国当局が事実上緩やかなドル安を志向していること
- ③年度下期は、輸出回復と復興需要により、米欧対比でわが国の高成長が見込まれること

	(円) 2011年		2011年				2012年	
	5月	6月	1~3月期	4~6月期	7~9月期	10~12月期	1~3月期	4~6月期
期中平均	81.23	81	82.3	82	82	83	83	85
(高値)	82.23	84	84.0	86	86	88	88	90
予測レンジ	~	~	~	~	~	~	~	~
(安値)	79.57	78	76.3	78	78	78	78	80



2. ユーロ相場見通し

ユーロ圏での金利先高感後退、成長鈍化、債務問題深刻化を受けて、対ドル・対円ともにユーロ調整色の強い展開へ。

(1) 5月の相場回顧

<対ドル> 4日にかけて1.4940ドルまでユーロ高が進行したものの、5日の定例会見でトリシェECB総裁が、市場で見込まれていた6月利上げを示唆しなかったことから、ユーロが急反落。その後も、ギリシャの債務再編を巡る緊急会合開催、ギリシャのユーロ離脱検討報道、ギリシャ格下げ等、ユーロ弱材料が相次ぎ、23日には、スペイン地方選挙での与党敗北等を手掛かりに、1.3968ドルまでユーロ安が進行。月末にかけては、中国によるポルトガル救済債購入報道や低調な米景気指標等を受け1.4425ドルまでユーロが持ち直し。

<対円> 5日のトリシェ総裁発言を契機としたECBによる6月利上げ観測の後退、商品市況急落・世界的な株安を受けたリスク回避の強まりを背景に、5日以降ユーロが急落。ギリシャ債務再編懸念も加わり、16日には一時113.40円まで円高ユーロ安が進行。その後、日系企業による欧州企業買収等を手掛かりに19日にかけて117.25円までユーロが反発したものの、ギリシャの大幅格下げやスペイン地方選挙での与党敗北等から23日には再び113円台まで円高ユーロ安が進行するなど、月末にかけてユーロ軟調地合いが持続。

(2) 今後の見通し 足許の状況を踏まえ、見通しをユーロ安方向に修正。

<対ドル> ①ユーロ高や緊縮財政を受けたユーロ圏での景気減速、②商品市況高騰一服を受けたユーロ圏での金利先高観の後退、等を背景に、年初来のユーロ高局面は一巡し、先行き**ユーロ調整色の強い展開が続く見込み**。③域内債務問題も、元本削減等の抜本的な解決が先送りされるなか、折に触れ、ユーロの上値抑制、ユーロ安に作用し続ける見通し。もっとも、①米国での早期利上げが期待し難いこと、②米財政赤字拡大を受けたドルに対する信認低下、等を背景に、ユーロの下値余地も限られる見込み。

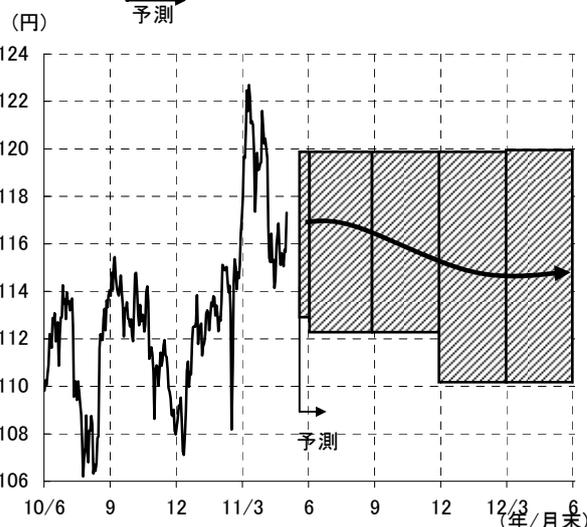
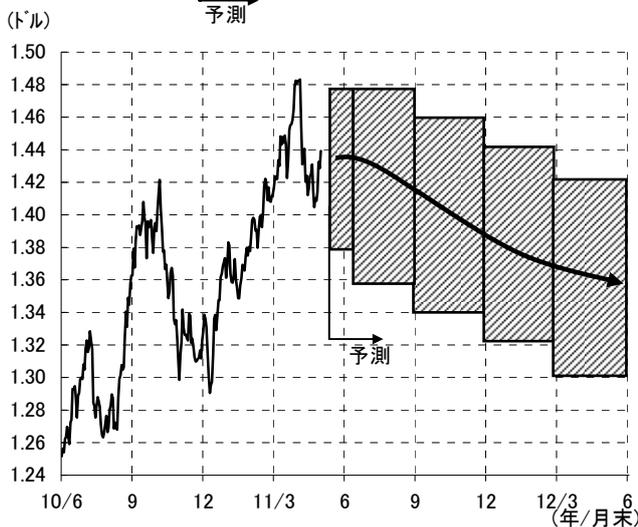
<対円> ①ユーロ高などをを受けたユーロ圏での景気減速、②商品市況高騰一服等を受けたユーロ圏での金利先高感の後退、③世界的な景気の先行き不透明感の強まりを受けたリスク回避の動き、等を背景に、年初からの円安ユーロ高局面は一巡し、**先行き円高ユーロ安局面が続く見通し**。ユーロ圏の域内債務問題も折に触れ円高ユーロ安に作用するほか、年後半は、復興需要顕在化等によるわが国景気の回復ペース加速も円高ユーロ安に作用する見通し。もっとも、①震災を受けたわが国の貿易収支の赤字化、②日銀による低金利政策の長期化、等から、**円高ユーロ安進行余地は限られる見通し**。

(USD)

(円)

	2011年				2012年	
	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6
平均	1.36	1.44	1.42	1.40	1.38	1.36
(高値)	1.39	1.49	1.48	1.46	1.44	1.42
レンジ	?	?	?	?	?	?
(安値)	1.29	1.38	1.36	1.34	1.32	1.30

	2011年				2012年	
	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6
平均	112	118	116	116	115	116
(高値)	114	123	120	120	120	120
レンジ	?	?	?	?	?	?
(安値)	107	113	112	112	110	110

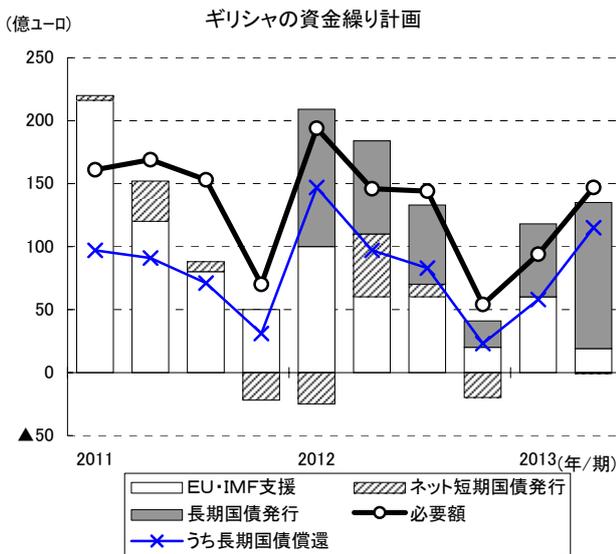


3. トピックス

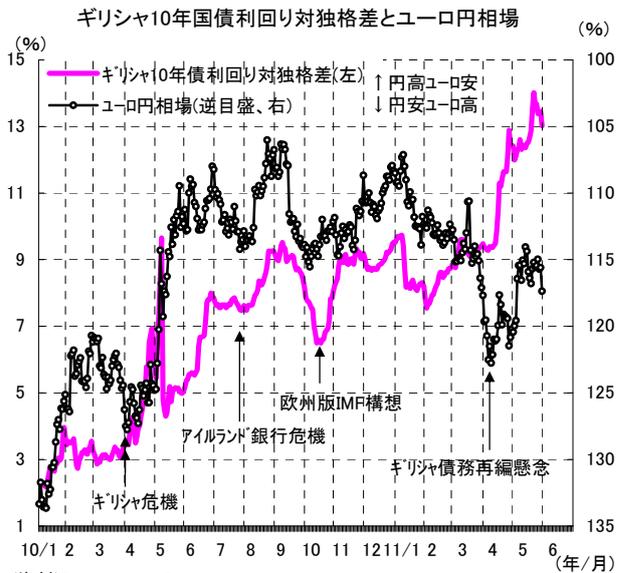
(1)ギリシャ債務再編: 抜本的な解決までユーロは乱高下を繰り返す公算大。

5月6日に、独紙に「ギリシャがユーロからの離脱を検討」との記事が出たほか、25日にはダマナキ欧州委員が「ギリシャのユーロ圏加盟維持が危ぶまれる」と発言するなど、ギリシャのユーロ離脱観測が浮上している。ギリシャのユーロ離脱は、ユーロ建債務の膨張によりかえって債務返済を困難化させるなど、経済的な損失が大きいだけに、早期に実現する可能性は乏しく、債務再編交渉に向けたギリシャ側からのブラフとみられる。しかしながら、昨年5月の1,100億ユーロのギリシャ支援策の際に想定されていた2012年初からの市場復帰が事実上困難になっており、市場調達予定の2012年の約250億ユーロ、2013年までに計600億ユーロをどう調達するのか、が抜き差しならない問題となっている。仮に、債務期間延長や債券保有継続等の対応により、2012年のファイナンス危機を乗り切ったとしても、ギリシャの債務問題の根本が同国の債務返済能力の欠如にある以上、元本削減等の抜本的な債務再編が行われない限り、債務問題は一旦鎮静化しても程なく懸念が再燃する展開が繰り返される見込み。ユーロ相場も、対策発表でユーロ高、懸念再燃でユーロ安の展開を繰り返す可能性が高い。

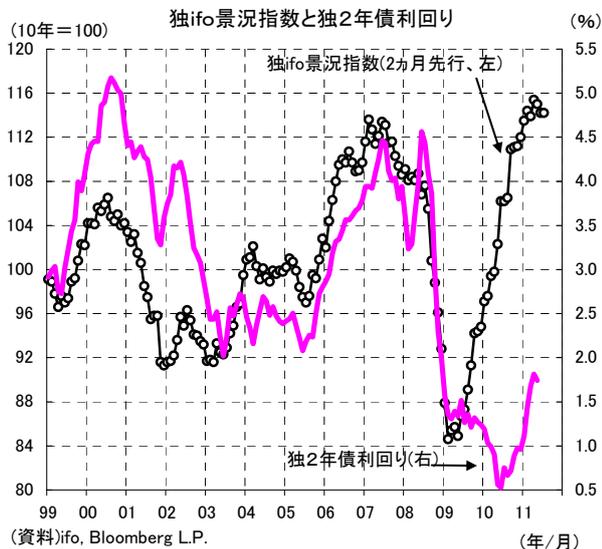
足許の実体経済面をみると、独ifo景況指数が2月をピークに頭打ちの様相を呈するなど、ECBの利上げ期待、それに伴うユーロ高の持続性に疑問符が付き始めている。これまでifo景況指数が改善する局面で、ECBによる利上げ観測の強まりから独2年債利回りが上昇する一方、同景況指数が悪化すると独2年債利回りは低下してきた。ECBの政策金利が1.25%と依然歴史的な低水準にあるなか、同指数が低下しても、独2年債利回りの低下余地は限られるものの、少なくとも独2年債利回りの一段の上昇、それに伴う対ドル、対円でのユーロ高進行は、見込み難くなりつつある。



(資料)EU委員会



(資料)Bloomberg L.P.



(資料)ifo, Bloomberg L.P.



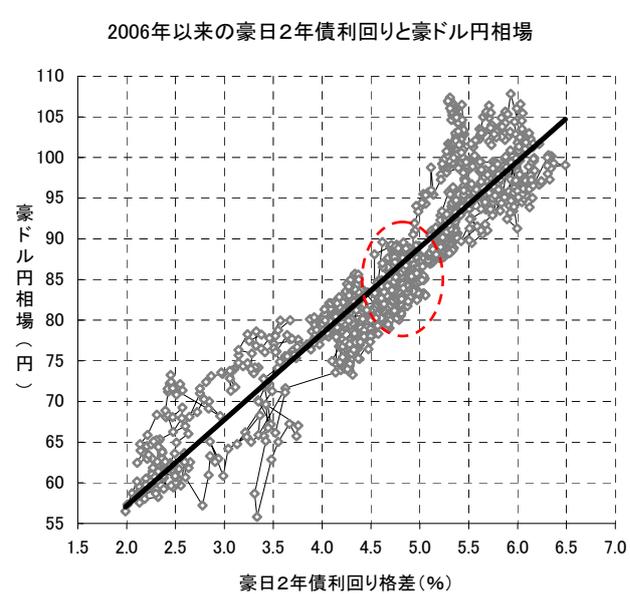
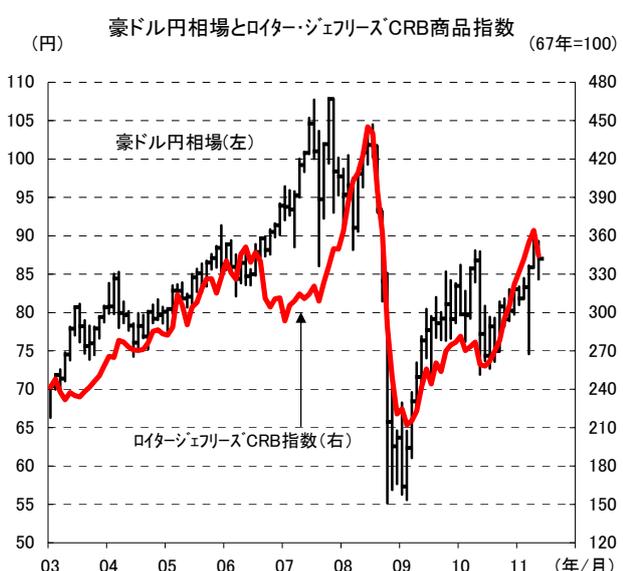
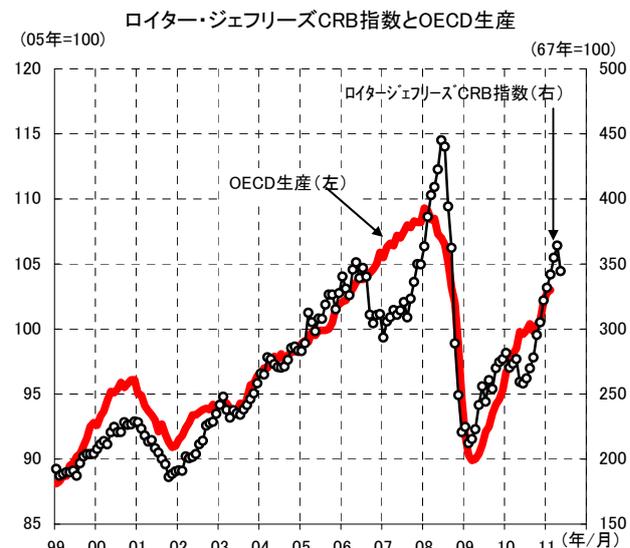
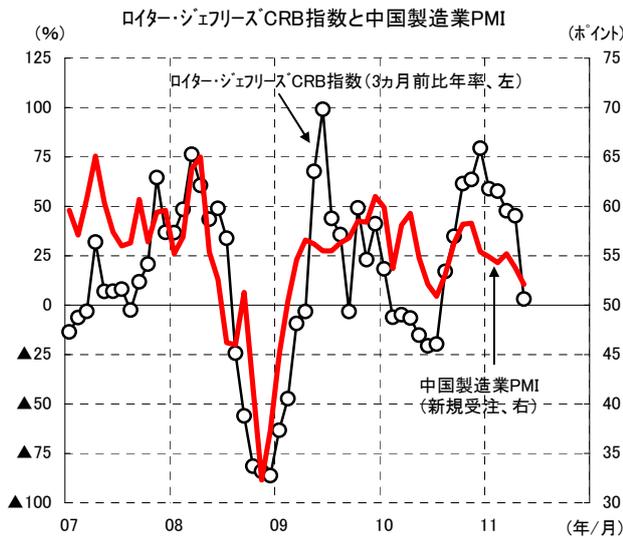
(資料)Bloomberg L.P.

(2)商品市況変調:既に实体经济に見合う水準に調整済み。円高豪ドル安進行余地は限られる見込み。

5月に入り、原油をはじめとした商品市況が急落した。米失業保険申請件数の大幅増加や先物取引での証拠金引き上げが商品市況急落の直接のきっかけとなったが、資源の最大の需要国である中国で景気減速色が強まり始めたことも市況変調の一因といえる。中国製造業PMI、とりわけ新規受注指数は、昨年11月をピークに低下基調が鮮明となっており、生産・受注の増勢鈍化が国際商品市況の上昇の勢いを弱める一因となっている。

とはいえ、国際商品市況はこれまでファンダメンタルズから大幅に乖離して上昇していたわけではない。99年以降、ロイター・ジェフリーズCRB指数（以下、CRB指数）は世界経済の代理変数ともいえるOECD生産とほぼ連動して推移している。本年入り以降は、CRB指数がOECD生産の伸びから示唆される水準以上に上昇した感はあるものの、それでも足許の生産水準を踏まえると、300ポイント前半がリーズナブルな水準と試算される。5月初の急落により、既にその水準まで調整が進んでいることから、世界経済が悪化に向かわない限り、CRB指数の低下余地は限られるとみられる。

商品市況急落に伴い、豪ドルを中心とした資源国通貨も調整色が強まっている。もっとも、豪ドルはとりわけ対円でCRB指数と強い相関を有してきたことから、同指数の調整余地が限られるなか、豪ドル円相場も大幅な調整には至らない見通し。これまでの両者の関係からは、CRB指数が300ポイント前半で推移する限り、80円台前半では豪ドルが底堅く推移する可能性が高い。ちなみに、豪日2年債利回り格差と豪ドル円相場の関係をもみても、金利差が足許の4%台後半の局面では2006年以降一貫して80円台での推移が続いており、豪中銀の利下げが視野に入らない限り、80円台前半では豪ドルの底堅い展開が見込まれる。

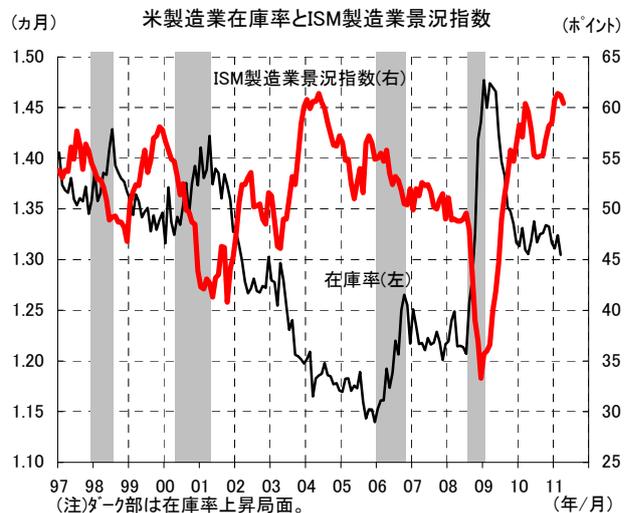
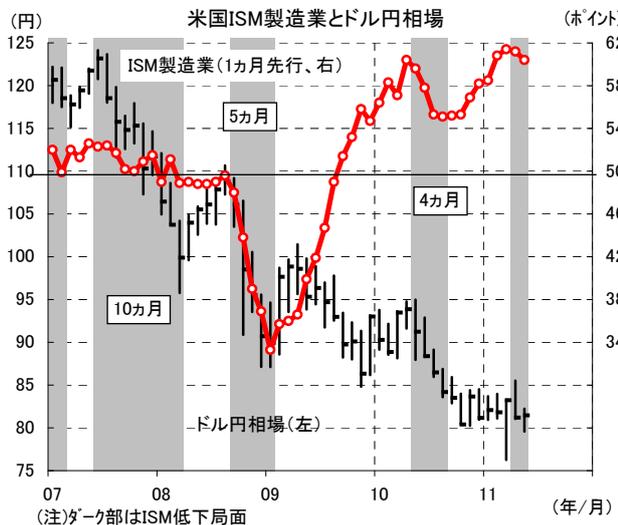
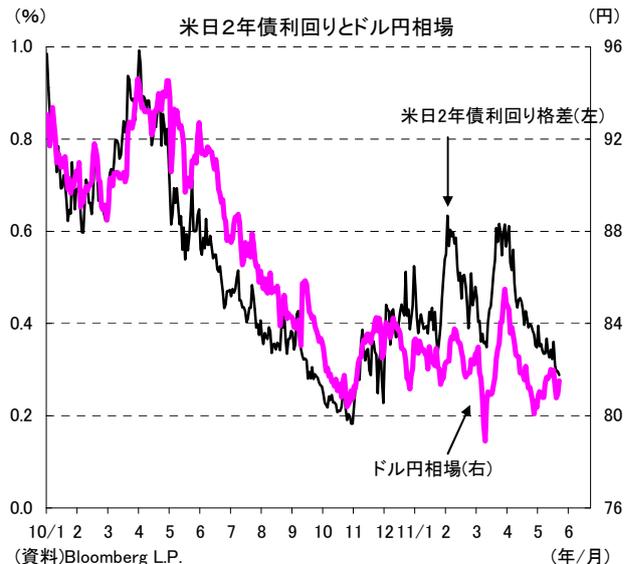
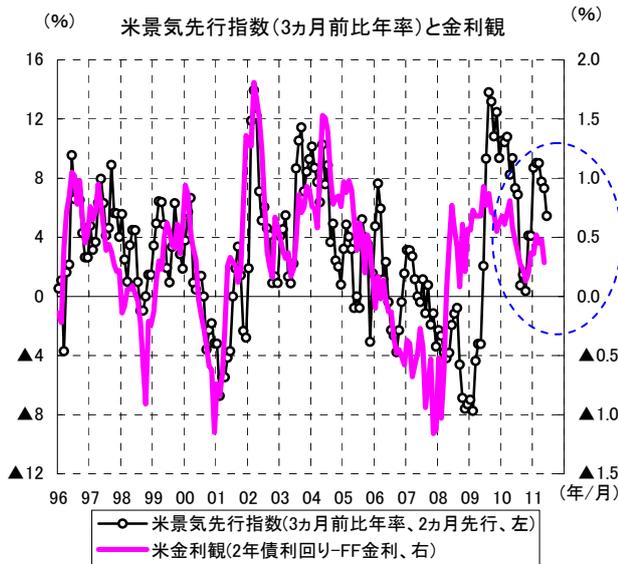


(3)米国景気の減速:金利先高観は大きく後退。今秋にかけて対円でのドル軟調地合いが続く可能性。

5月入り以降、米国景気の減速を示唆する指標が散見されている。ガソリン価格高騰がその背景とみられるが、景気に対し3～6ヵ月程度の先行性を有する景気先行指数は、4月に前月比▲0.3%と10年6月以来10ヵ月振りに低下しており、秋にかけて米国景気の減速色が一段と強まる可能性がある。同指数の改善ペースが鈍化するなか、金利先高観も大きく後退しており、4月初に一時0.8%台まで上昇していた米2年債利回りは、足許0.5%台前半まで低下している。同先行指数の顕著な改善がない限り、米2年債利回りの持続的な上昇は期待し難く、米日2年債利回り格差と強い相関を有するドル円相場も、80円台前半での円高ドル安地合いから容易には抜け出せない見通し。

米ISM製造業景況指数も、当面の対円でのドル軟調地合い持続を示唆している。2007年以降の米ISM製造業景況指数とドル円相場の関係をみると、米ISM製造業景況指数の上昇は必ずしも円高ドル高につながっていないものの、指数が低下する局面では例外なく円高ドル安が進行している。指数低下が金利先高観の後退等を通じてドル安に作用していると判断される。米ISM製造業景況指数は、歴史的な高水準にあるものの、2月をピークに2ヵ月連続で低下している。同指数は一旦低下に転じると、少なくとも4～5ヵ月は低下が続いていることから、夏場にかけてドル弱含みの展開が続く可能性が高い。

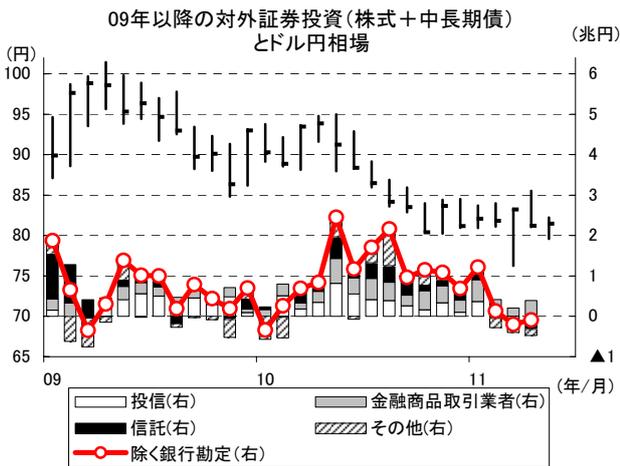
なお、米製造業の在庫率とISM製造業景況指数の関係をみると、在庫率が大幅に上昇すると、ISM製造業景況指数の低下が大幅かつ長期化している。現状在庫率に顕著な上昇はみられず、むしろ日本の震災の影響を受けた在庫不足が生産や売上の足かせになっている現状を踏まえると、ISM製造業景況指数の調整も短期かつ小幅にとどまる可能性が高い。対円で再び長期的なドル安が進行するような状況ではない。



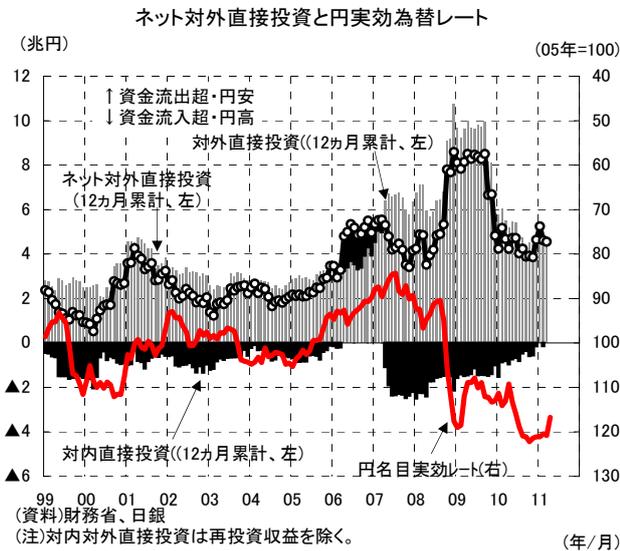
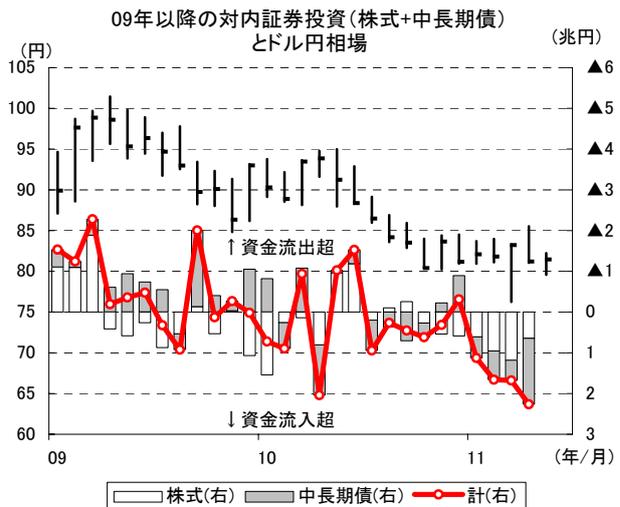
(4)日本を取り巻く内外資金フロー:足許の証券投資は対外低調・対内増加で円高地合い。今後は、対外直接投資増加が円高抑制要因に。

震災直後に流布されたわが国生保・損保による対外資産換金売りは、現実には生じなかったが、対外証券投資は震災以降低調に推移している。震災をきっかけとした手元流動性確保の必要性、株安によるリスク許容度低下等が対外証券投資抑制に作用しているとみられる。逆に、対日証券投資は、年明け以降月を追って増加している。世界的にみた日本株の割安感から対日株式投資が増加しているほか、中長期債投資も低金利にかかわらず増加している。2009年以降、対外証券投資が停滞すると円高、増加すると円安、逆に、対内証券投資が増加すると円高、停滞すると円安となるなど、証券投資による資金流入がドル円相場に強い影響を与えている。足許増加している対内中長期債投資に関しては、英国からの投資が大半を占め、円高を期待した投機的な買いが含まれているとみられる。先行きも、対内証券投資が高水準で推移する限り、あるいは、対外証券投資が活発化しない限り、円高ドル安リスクがくすぶり続けることになる。

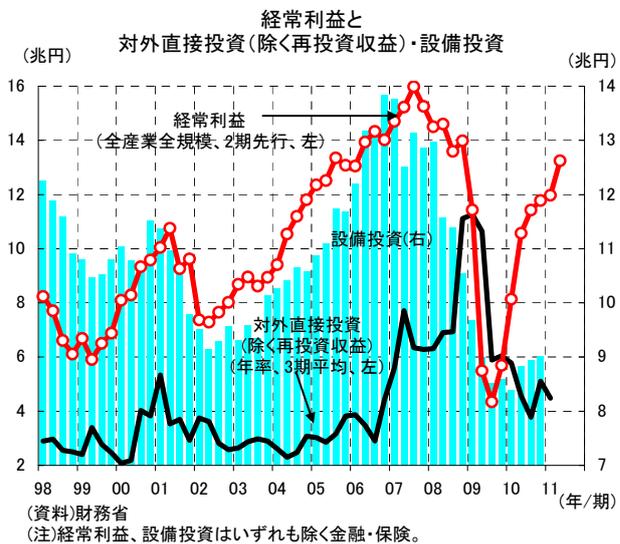
一方、対外証券投資は低調ながら、5月入りに以降、わが国大企業による海外企業買収の動きが増え始めている。99年以降の対内対外直接投資動向(除く再投資収益)と円実効為替レートの推移をみると、リーマンショックを受け海外金融機関への大型出資が相次いだ2008~09年にかけては、対外直接投資増加は円安に結びつかなかったものの、同時期を除けば、対外直接投資が増加すると円安に、逆に減少すると円高に振れるなど、対外直接投資の動向が円相場に強い影響を及ぼしてきた。①人口減少を受けて国内での成長機会が乏しくなっていること、②円高により海外株式購入・資本出資が容易になっていること、等を踏まえると、2010年以降企業収益の持ち直し傾向が明確し、企業の投資活動が活発化し始めている状況下、わが国企業による海外M&Aは今後一段と増加する可能性が高い。震災による企業収益へのマイナス影響を乗り切れば、わが国企業による積極的な対外直接投資が徐々に円押し下げ要因となてこよう。



(資料)財務省
(注)銀行動定を除く。



(資料)財務省、日銀
(注)対内対外直接投資は再投資収益を除く。



(資料)財務省
(注)経常利益、設備投資はいずれも除く金融・保険。

4. ドル円相場・チャート分析

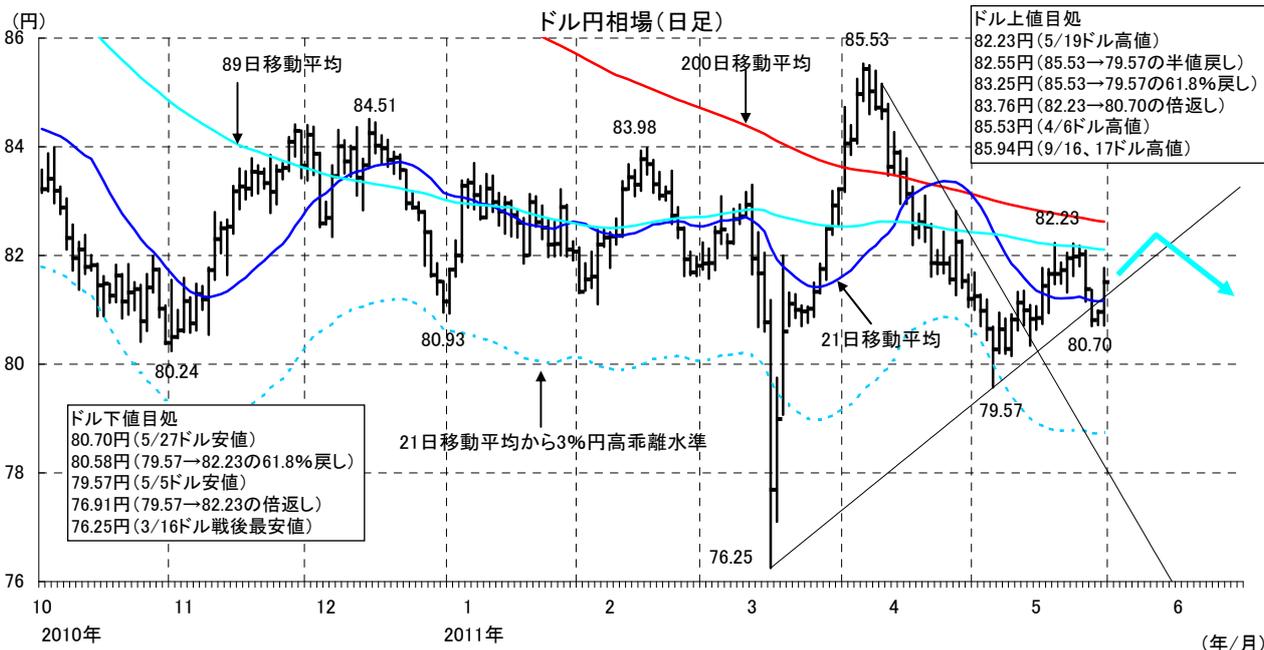
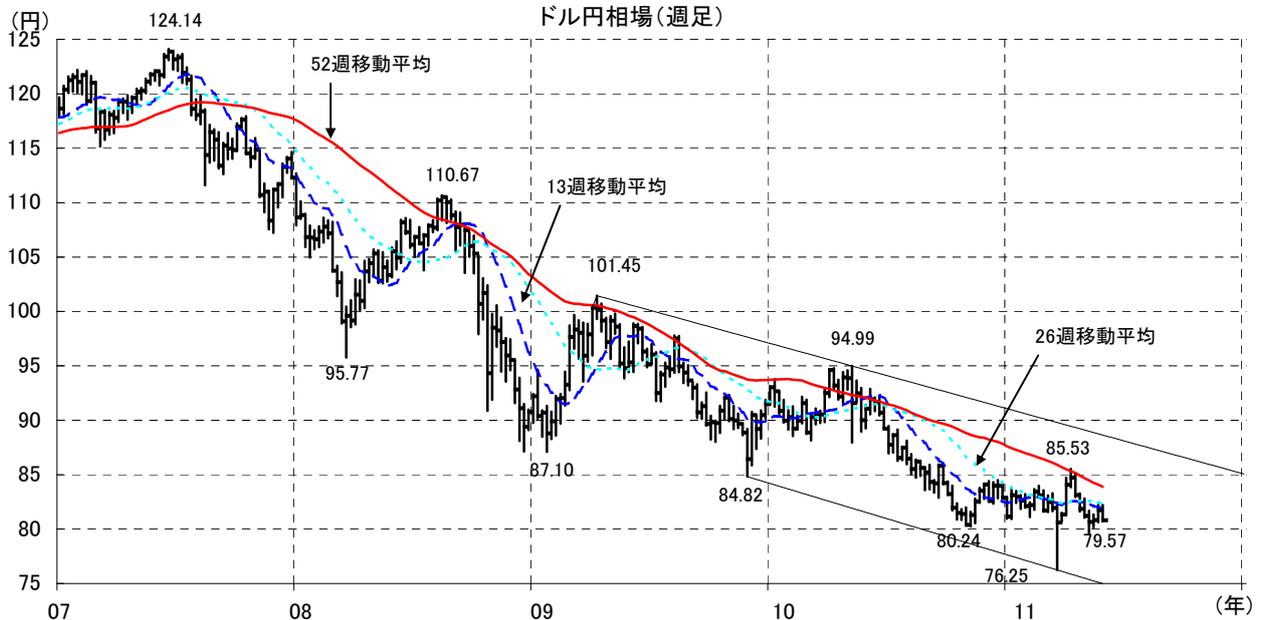
当面ドル下値模索。再度の80円割れも視野に。一方、82円台からはドルの上値が重くなる見込み。

<週足チャート (6/1時点での見解)>

- ・ 5月下旬にかけてドル高が進行したものの、26週線がドルの上値を抑制し、ドル安に反転。直近ドル安値(79.57円)を当面の目標に、ドルの下値を模索する展開が続く見込み。
- ・ 一方、ドルの上値では、81円台後半～82円台前半に位置する13週線、26週線が当面ドルの上値抑制に作用。これらを上抜けても、これまで基調転換の目処となってきた52週線(83円台後半)近辺ではドルの上値が重くなる見込み。

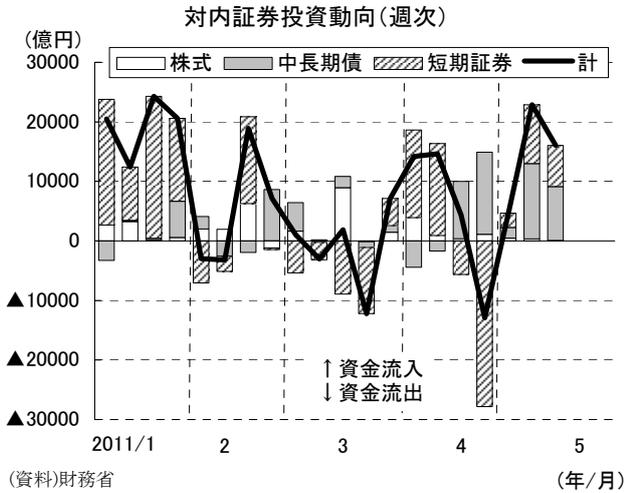
<日足チャート (6/1時点での見解)>

- ・ 5月末にかけて、81円前後に位置する3月来のドル下値支持線、21日線を一旦下抜けしたものの、足許では切り返し。当面は、89日線(82円前後)、さらには200日線(82円台後半)を目処にドルの反発余地を探る展開。同線を上抜ければ、直近ドル高値85.53円が視野に。
- ・ 一方、80.70円を再度下抜けすれば、5月ドル安値(79.57円)、さらには、過去ドル下げ止まりに作用してきた21日線から3%円高乖離水準(79円前後)等を目処に、ドルが下振れする可能性。

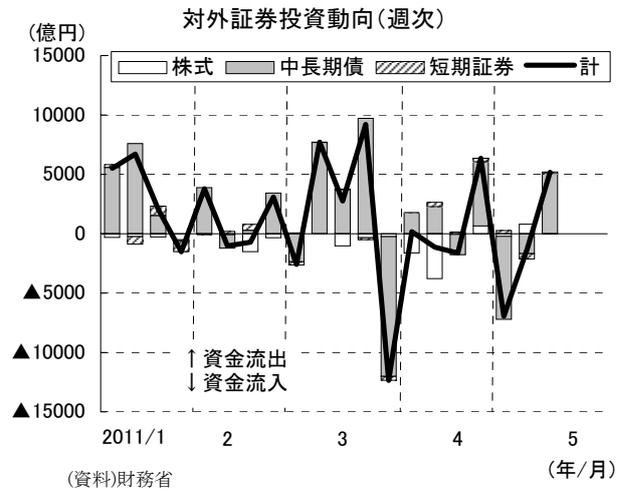


5. 為替関連指標

<対内対外証券投資動向>

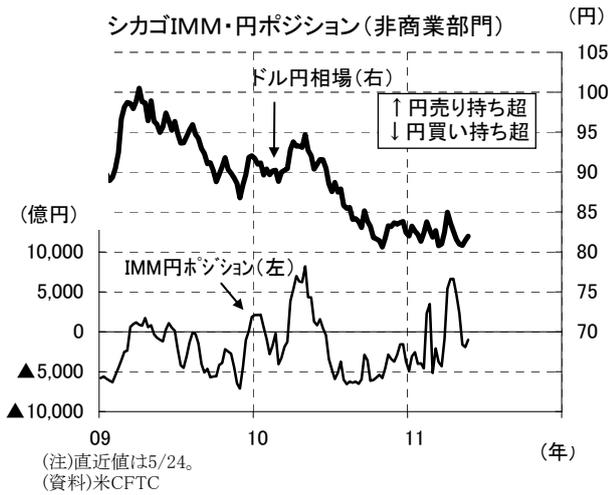


4月入り以降、対日株式投資は減退。もともと、中長期債投資は増加しており、需給面からの円高圧力が根強く残存。

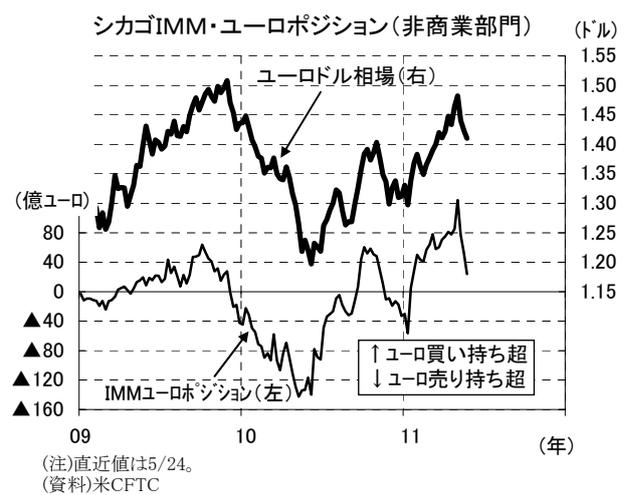


新年度入り後も、回収超が続くなど、対外投資は異例な低水準。円安は期待薄。

<シカゴIMM(通貨先物)ポジション>

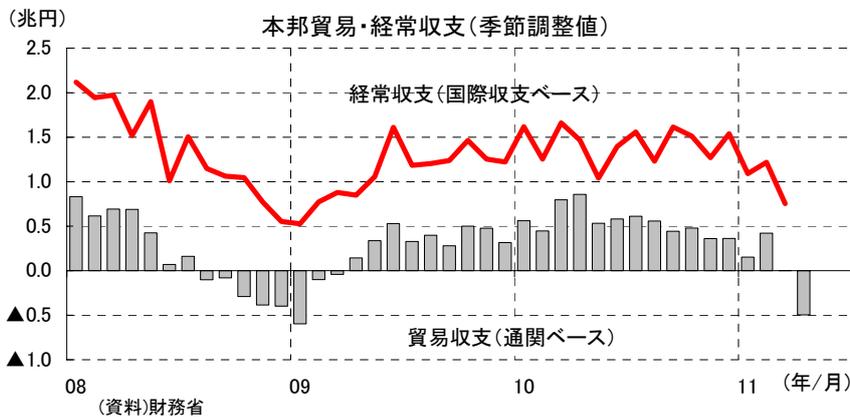


5月入り以降、円買い持ち超に転換。円買い余力はなお大きく、短期的にはもう一段の円高進行リスクも。



5月入り以降、ユーロ買い持ち幅は大幅に縮小。ユーロ安進行余地は限られる見通し。

<本邦貿易・経常収支>



4月の貿易収支は、震災を受けたサプライチェーン寸断の影響により自動車を中心に輸出の減少が続く、貿易収支は季節調整値ベースで09/3以来の赤字に転落。今後は、サプライチェーンの回復に伴い、輸出の持ち直しが期待されるものの、当面は貿易赤字が継続する見込み。

内外市場データ（月中平均）

	短期金利		ユーロ円(TIBOR)		円・円スワップ			国債 10年物 (%)	プライムレート		為替相場		日経平均 株価 (円)	米国市場				欧州市場	
	公定歩合 (%)	無担0/N (%)	3カ月 (%)	6カ月 (%)	2年 (%)	5年 (%)	10年 (%)		短期 (%)	長期 (%)	¥/\$	¥/Eur		F F 0/N	ユーロ3カ月	10年国債	N Yダウ 工業株	ユーロ3カ月	10年国債
07/10	0.75	0.506	0.84	0.91	1.10	1.37	1.83	1.65	1.875	2.45	115.74	164.74	16903.36	4.75	5.15	4.51	13901.28	4.68	4.29
07/11	0.75	0.500	0.85	0.91	1.02	1.27	1.71	1.51	1.875	2.20	111.21	163.28	15543.76	4.50	5.02	4.14	13200.58	4.64	4.10
07/12	0.75	0.497	0.86	0.91	0.97	1.24	1.70	1.53	1.875	2.30	112.34	163.50	15545.07	4.22	5.17	4.09	13406.99	4.85	4.24
08/1	0.75	0.502	0.85	0.89	0.83	1.09	1.60	1.42	1.875	2.10	107.66	158.14	13731.31	3.93	3.93	3.72	12538.12	4.48	4.05
08/2	0.75	0.504	0.85	0.88	0.89	0.96	1.64	1.44	1.875	2.15	107.16	158.18	13547.84	2.97	3.12	3.73	12419.57	4.36	3.96
08/3	0.75	0.511	0.86	0.89	0.92	1.08	1.51	1.30	1.875	2.10	100.79	156.28	12602.93	2.60	2.85	3.48	12193.88	4.60	3.81
08/4	0.75	0.506	0.84	0.88	0.98	1.16	1.59	1.41	1.875	2.10	102.49	161.53	13357.70	2.26	3.02	3.64	12656.63	4.78	4.05
08/5	0.75	0.505	0.84	0.88	1.18	1.47	1.87	1.67	1.875	2.40	104.14	162.05	13995.33	1.99	2.84	3.87	12812.48	4.86	4.20
08/6	0.75	0.509	0.84	0.89	1.30	1.62	1.99	1.75	1.875	2.45	106.90	166.23	14084.60	2.00	2.95	4.08	12056.67	4.94	4.55
08/7	0.75	0.503	0.85	0.90	1.18	1.44	1.82	1.60	1.875	2.40	106.81	168.35	13168.91	2.02	3.00	3.97	11322.38	4.96	4.50
08/8	0.75	0.504	0.85	0.89	1.01	1.26	1.66	1.45	1.875	2.25	109.28	163.75	12989.35	1.99	3.00	3.88	11530.75	4.96	4.22
08/9	0.75	0.495	0.85	0.90	1.05	1.31	1.69	1.48	1.875	2.30	106.75	153.25	12123.53	1.86	3.95	3.68	11114.08	5.02	4.10
08/10	0.50	0.487	0.88	0.91	1.02	1.27	1.55	1.50	1.875	2.35	100.33	133.49	9117.03	1.01	5.31	3.78	9176.71	5.11	3.90
08/11	0.50	0.301	0.82	0.86	0.89	1.13	1.48	1.46	1.675	2.40	96.81	123.25	8531.45	0.39	3.11	3.46	8614.55	4.23	3.57
08/12	0.30	0.211	0.86	0.88	0.85	1.02	1.32	1.31	1.675	2.40	91.28	122.79	8463.62	0.17	2.47	2.40	8595.56	3.29	3.06
09/1	0.30	0.120	0.73	0.78	0.75	0.94	1.26	1.25	1.475	2.25	90.41	119.68	8331.49	0.15	1.73	2.47	8396.20	2.45	3.09
09/2	0.30	0.111	0.71	0.77	0.72	0.89	1.19	1.29	1.475	2.25	92.50	118.33	7694.78	0.22	1.65	2.85	7749.01	1.96	3.17
09/3	0.30	0.100	0.68	0.75	0.74	0.91	1.25	1.30	1.475	2.25	97.87	127.44	7764.58	0.18	1.62	2.80	7235.47	1.63	3.06
09/4	0.30	0.104	0.62	0.72	0.75	0.99	1.39	1.44	1.475	2.30	99.00	130.50	8767.96	0.15	1.49	2.90	7992.12	1.42	3.19
09/5	0.30	0.102	0.58	0.70	0.69	0.94	1.36	1.44	1.475	2.10	96.30	131.92	9304.43	0.17	1.23	3.30	8398.37	1.28	3.42
09/6	0.30	0.104	0.56	0.68	0.68	0.92	1.41	1.47	1.475	2.10	96.52	135.46	9810.31	0.21	1.07	3.70	8593.00	1.23	3.55
09/7	0.30	0.102	0.56	0.67	0.62	0.86	1.37	1.34	1.475	1.90	94.50	133.00	9691.12	0.16	0.91	3.53	8679.75	0.95	3.36
09/8	0.30	0.106	0.55	0.66	0.60	0.88	1.46	1.37	1.475	1.95	94.84	135.40	10430.35	0.16	0.69	3.57	9375.06	0.83	3.33
09/9	0.30	0.102	0.53	0.65	0.56	0.83	1.41	1.31	1.475	1.80	91.49	132.80	10302.87	0.15	0.53	3.39	9634.97	0.73	3.29
09/10	0.30	0.106	0.53	0.64	0.58	0.86	1.47	1.33	1.475	1.70	90.29	133.87	10066.24	0.12	0.49	3.36	9857.34	0.69	3.23
09/11	0.30	0.105	0.52	0.63	0.56	0.83	1.48	1.35	1.475	1.85	89.19	132.98	9640.99	0.12	0.45	3.38	10227.55	0.67	3.28
09/12	0.30	0.101	0.47	0.59	0.48	0.71	1.39	1.26	1.475	1.65	89.55	130.95	10169.01	0.12	0.45	3.59	10433.44	0.67	3.23
10/1	0.30	0.096	0.45	0.57	0.48	0.72	1.42	1.33	1.475	1.65	91.16	130.30	10661.62	0.12	0.43	3.71	10471.24	0.63	3.29
10/2	0.30	0.101	0.44	0.56	0.47	0.72	1.41	1.33	1.475	1.65	90.28	123.58	10175.13	0.13	0.40	3.68	10214.51	0.60	3.19
10/3	0.30	0.097	0.44	0.55	0.46	0.71	1.40	1.34	1.475	1.60	90.52	122.96	10671.49	0.16	0.40	3.71	10677.52	0.59	3.13
10/4	0.30	0.093	0.41	0.52	0.47	0.72	1.40	1.35	1.475	1.65	93.38	125.57	11139.77	0.20	0.40	3.82	11052.15	0.59	3.09
10/5	0.30	0.091	0.39	0.50	0.48	0.69	1.34	1.27	1.475	1.60	91.74	114.68	10103.98	0.20	0.49	3.40	10500.19	0.63	2.80
10/6	0.30	0.095	0.39	0.50	0.47	0.65	1.27	1.20	1.475	1.45	90.92	110.99	9786.05	0.18	0.61	3.19	10159.25	0.66	2.63
10/7	0.30	0.094	0.37	0.49	0.45	0.59	1.16	1.09	1.475	1.45	87.72	111.81	9456.84	0.18	0.61	2.98	10222.24	0.79	2.65
10/8	0.30	0.095	0.37	0.49	0.43	0.54	1.04	0.98	1.475	1.45	85.47	110.36	9268.24	0.19	0.51	2.68	10350.40	0.83	2.37
10/9	0.30	0.090	0.36	0.47	0.41	0.55	1.13	1.06	1.475	1.45	84.38	109.94	9346.72	0.20	0.43	2.64	10598.07	0.83	2.34
10/10	0.30	0.091	0.34	0.45	0.38	0.47	0.97	0.89	1.475	1.30	81.87	113.65	9455.09	0.19	0.40	2.51	11044.49	0.94	2.37
10/11	0.30	0.091	0.34	0.45	0.40	0.55	1.12	1.05	1.475	1.40	82.48	112.64	9797.18	0.20	0.40	2.75	11198.31	0.98	2.56
10/12	0.30	0.087	0.34	0.45	0.41	0.64	1.27	1.19	1.475	1.60	83.41	110.28	10254.46	0.18	0.39	3.28	11465.26	0.95	2.96
11/1	0.30	0.085	0.34	0.45	0.41	0.64	1.27	1.21	1.475	1.50	82.63	110.53	10449.53	0.17	0.39	3.36	11802.37	0.95	3.05
11/2	0.30	0.093	0.34	0.45	0.43	0.71	1.34	1.28	1.475	1.65	82.53	112.70	10622.27	0.16	0.41	3.56	12190.00	1.04	3.23
11/3	0.30	0.085	0.34	0.45	0.40	0.64	1.29	1.25	1.475	1.60	81.79	114.48	9852.45	0.14	0.42	3.40	12081.48	1.13	3.25
11/4	0.30	0.062	0.33	0.44	0.39	0.65	1.32	1.27	1.475	1.70	83.35	120.34	9644.63	0.10	0.40	3.43	12434.88	1.27	3.35
11/5	0.30	0.069	0.33	0.44	0.37	0.56	1.19	1.14	1.475	1.55	81.23	116.03	9650.78	0.09	0.38	3.15	12579.99	1.38	3.11

(注) 公定歩合とプライムレートは月末値。

内外政治・経済トピックスと今後のスケジュール

	国内	海外	
5	2 3月毎月勤労統計:現金給与総額は前年比▲0.4%と13ヵ月振りの減少	ビンラディン容疑者、パキスタンで死亡	
	3	ポルトガル、EU/IMFと期間3年総額780億ユーロの金融支援で合意	
	4	英中銀、政策金利・資産買入枠据え置き ECB、政策金利据え置き。トリシェ総裁「物価動向を非常に注意深く監視」 米4月ISM非製造業景況指数、52.8と10/8以来8ヵ月振りの低水準	
	5	米失業保険申請件数、47.4万件と昨年8/14週以来の水準に増加	
	6 菅首相、浜岡原発のすべての原子炉の運転停止を中部電力に要請	米4月雇用統計:雇用者数+244千人と10/5以来の大幅増。失業率は9.0%に上昇。 独シュピーゲル紙「ギリシャ政府、ユーロ圏離脱し独自通貨を再導入する可能性」	
	9	S&P、ギリシャ国債格付けを「BB-」から「B」に引き下げ	
	10	米中戦略経済対話「中国は引き続き人民元相場の弾力化を推進」 「米 国は為替レートの大幅な過度な変動を注視」	
	11 3月景気動向指数(速報):一致指数は▲3.2ポイントと統計開始以来最大の下落	中国4月消費者物価前年比+5.3%	
	12 4月景気ウォッチャー調査:先行きは+11.8ポイントと統計開始以来最大の上昇	中国人民銀行、預金準備率50bp引き上げ	
	13 政府、原発事故賠償スキームを決定	ユーロ圏・独・仏1~3月期実質GDP前期比各+0.8%、+1.5%、+1.0%	
	14	ストロスカーク IMF 専務理事、強姦未遂で逮捕・訴追	
	16 3月機械受注(船・電除民需)、前月比+2.9% 4月消費者態度指数、前月比▲5.5ポイントと統計開始以来最大の悪化	ユーロ圏財務相会合、トラキイ中銀総裁の次期ECB総裁就任で合意 米5月NY連銀製造業景況指数、10/12以来5ヵ月振りの水準に低下 米製造業生産、前月比▲0.4%と昨年6月以来10ヵ月振りのマイナス	
	18 みずほFG、みずほ銀行とみずほコーポレート銀行を合併へ	米4月FOMC議事録「中期的にB/Sを縮小、財務省証券のみの保有に回帰」	
	19 1~3月期実質GDP、前期比年率▲3.7%と2四半期連続のマイナス成長	米4月CB景気先行指数、前月比▲0.3%と10/6以来10ヵ月振りのマイナス	
	20 日銀、政策金利据え置きを全員一致で決定。基金規模据え置き。	フィッチ、ギリシャ格付けを「BB+」から「B+」に引き下げ。見通しは「ネガティブ」	
	22	スペイン 地方選、与党社会労働党大敗	
	24 月例経済報告、「このところ弱い動き」と基調判断を据え置き。		
	25 4月通関貿易収支、季節調整値ベースで09/3以来の赤字	米4月耐久財受注、前月比▲3.6%と昨年10月以来の大幅減	
	26	米1~3月期実質GDP(改定値)、前期比年率+1.8%で不変	
	27 4月全国CPI(除く生鮮)、前年比+0.6%と08/12以来2年4ヵ月振りの上昇 フィッチ、日本のソブリン格付け見通しをネガティブに変更	ド・ビルG8サミット共同声明「世界経済の回復は一段と自律的になっている」 米財務省半期為替報告、中国を為替操作国と認定せず	
	31 4月鉱工業生産、前月比+1.0%。予測指数:5月+8.0%、6月+7.7% ムーディーズ、日本のソブリン格付けを引き下げ方向で見直し	米5月シカゴ購買部協会景気指数、56.6と09/11以来の水準に低下	
	6	1	米5月ISM製造業景況指数
		2 1~3月期法人企業統計季報	OPEC総会(ウーン)。米4月製造業受注
		3	米5月雇用統計、5月ISM非製造業景況指数
		5	ポルトガル総選挙
		7 4月景気動向指数(速報)	
		8 4月国際収支、5月マネーストック、景気ウォッチャー調査	米ページブック
		9 1~3月期実質GDP(二次速報値)、5月消費者態度指数	ECB理事会。英中銀金融政策委員会(8日~)。米4月貿易収支
		10 5月国内企業物価	中国5月貿易収支
		13 4月機械受注	
		14 日銀決定会合(13日~)、日銀総裁定例記者会見	中国5月消費者物価・鉱工業生産・固定資産投資・小売売上高 米5月生産者物価、小売売上高
15		米6月NY連銀製造業景況指数、4月証券投資 米5月消費者物価、鉱工業生産・設備稼働率	
16		米5月住宅着工件数、1~3月期経常収支、6月フィデラルフィア連銀景況指数	
17		米6月シカゴ大学消費者信頼感(速報)、5月CB景気先行指数	
20 5月通関貿易収支			
21 4月全産業活動指数		米5月中古住宅販売	
22 通常国会会期末		米FOMC(21日~)。バーナンキ米FRB議長定例記者会見。	
23		米5月新築住宅販売	
24 5月企業向けサービス価格指数		独6月ifo景況指数。EU首脳会議 米1~3月期実質GDP(改定値)、5月耐久財受注	
27		米5月個人所得・消費	
28		米4月S&P/ケース・シラー住宅価格指数、6月CB消費者信頼感指数	
29 5月鉱工業生産			
30 5月住宅着工	6月シカゴ購買部協会景気指数		
7	1 6月東京都区部消費者物価・5月全国消費者物価 5月労働力調査・有効求人倍率、家計調査。日銀短観6月調査	中国6月製造業PMI 米6月シカゴ大学消費者信頼感(確報)、ISM製造業景況指数	